

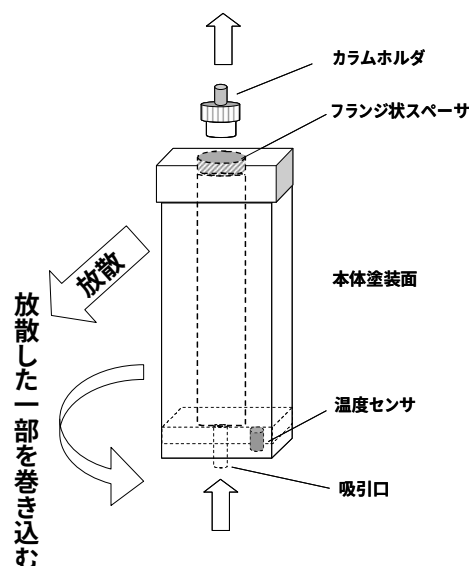
お客様 各位

捕集管加温装置 GTH-1（製造番号 No.1501～1614）
の不具合に対するご協力のお願い

捕集管加温装置 GTH-1 に関して、通気経路以外に使用している部品（フランジ状スペーサー）および筐体の塗装表面からホルムアルデヒドが発生することが確認されました。

また、測定環境条件に拠っては放散されたホルムアルデヒドの一部が本体の下部に配置されている吸引口から採取されて測定値に正の影響を与える可能性があります。影響を及ぼすメカニズムは右図の通りです。

尚、吸引口に吸引延長チューブを取り付けて本体より離して使用した場合や、風速の大きな状況においては測定値に影響を与えることはありません。



従いまして、ホルムアルデヒドが発生している部品等を再検討し、部品および筐体の交換を行なうことで測定値に影響が出ないように対策をすることといたしました。

尚、本製品は大気環境の 24 時間連続測定の補助器具として開発されたものであり、室内環境の 30 分測定等を目的として設計されたものではありません。

大変ご迷惑をお掛けし誠に申し訳ございませんが、ご購入いただきました下記製品につきまして、対策処置をさせていただきたく存じます。（処置内容は放散の可能性のある部品の交換となります。）尚、対策処置には、現品到着後、約 2 週間程度かかる見込みでございます。お手元に下記製品をお持ちのお客様は、ご連絡をお願いいたします。

対象製品：捕集管加温装置 GTH-1

（販売日：平成 18 年 6 月～ 製造番号：No.1501～1614 合計 114 台）

＊平成 18 年 6 月以前にご購入いただいた製品（製造番号：No.1500 以前）の部品および塗装部分からホルムアルデヒドはブランクレベル（ $0.1\mu\text{g}$ 以下）であることを確認しておりますが、お手元の製品をご確認したい場合は弊社にお送りいただきたく存じます。ホルムアルデヒドの発生量を測定し、問題がないことを確認して返却させていただきます。

連絡先：株式会社ガステック 営業二部 営業開発課

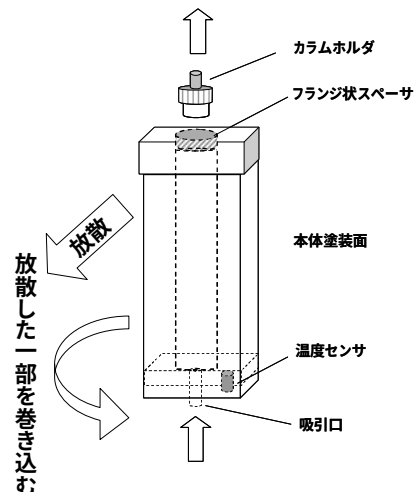
電話：0467-79-3911 FAX：0467-79-3979 宮下直人

測定値への影響について

測定値に対する影響の程度は気象条件や測定方法により異なります。

本体温度が高くなると放散量が多くなるため相対的に影響度が高まります。また、本体周辺の気流が大きいと希釈効果により影響度が低減化されると考えられます。また、取扱説明書には直射日光や本体への造作を避けていただく旨の記載はありますが、測定値に影響を与える条件として考えられることを以下にまとめました。

また、ラボ試験結果および交換対象ロットの大気環境実測例についても記載いたします。

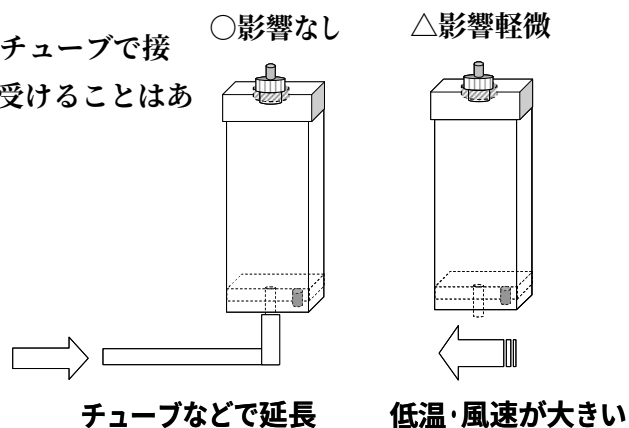


【① 影響を受けない】

- 装置のサンプリング口とサンプリング先を直接チューブで接続したり、延長している場合には放散の影響を受けることはありません。

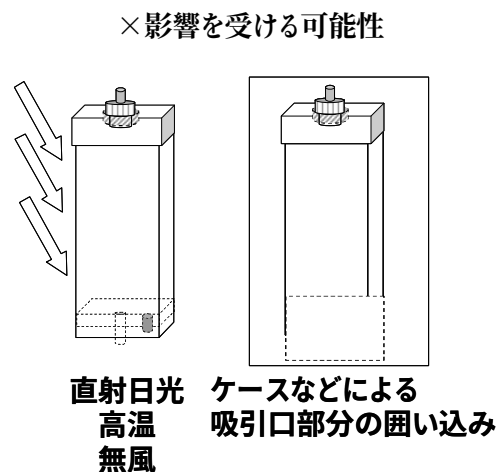
【② 影響を受けにくい】

- 気温が低く涼しい条件
- 直射日光を遮ったり、日陰での測定
- 気温が高くても風が絶えず吹いている場合



【③ 影響を受けやすい】

- 高温、直射日光、且つ風が無風（実験では $<0.1\text{m/s}$ ）、または装置付近で空気滞留が起きている場合
- 装置を雨よけ用ビニール等で覆っている場合やケースに入れて使用した場合
(延長してビニールやケースの外に採取口を出した場合
には影響は少なくなります)

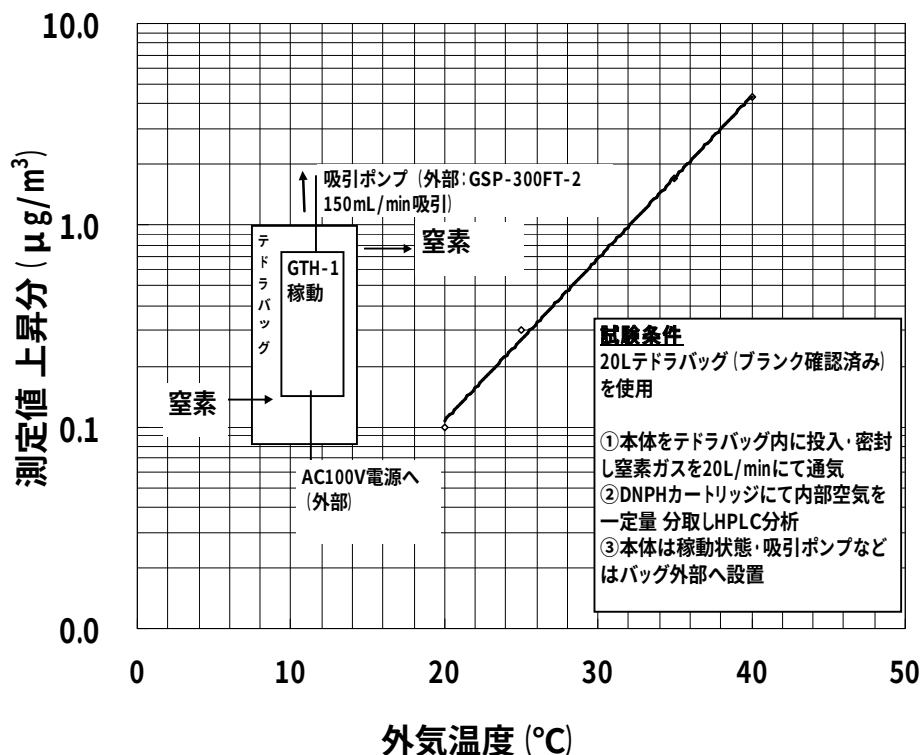


24時間サンプリング測定例

No.	天気	気温 (°C)		風速 m/sec	降水量 mm	① 大気濃度	② 測定値	備考
		最低	最高					
①	雨	19.6	27.4	1.6	9.0	3.7	4.0 (+0.3)	交換対象品と同ロット (三脚を使用し、吸引口は延長 なし・直射日光をあてた場合)
②	雨	19.6	27.4	1.6	9.0	3.7	4.6 (+0.9)	
③	はれ	18.3	30.7	1.5	0.0	3.9	5.5 (+1.6)	
④	雨	21.5	23.2	1.1	21.5	2.6	3.3 (+0.7)	
⑤	雨	21.5	23.2	1.1	21.5	2.6	3.0 (+0.4)	
⑥	はれ	15.7	24.0	1.7	0.0	2.9	2.9 (+0)	
⑦	はれ	15.6	18.9	2.5	0.0	2.8	3.3 (+0.5)	
⑧	はれ	15.6	18.9	2.5	0.0	2.8	2.9 (+0.1)	
⑨	はれ	24.2	32.0	1.7	0.0	3.2	6.9 (+3.7)	*1)

*1) 新品 開封直後・三脚を使用し、吸引口付近をビニールで囲い込み・外気温高、直射日光をあてた場合

- No. ①～⑤、⑦: 通常使用では $0.1 \sim 1.6 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 程度の影響が確認された場合
- No. ⑥、⑧ : 気温や風速によって影響の少ない場合(経路延長の場合も含まれます)
- No. ⑨ : 囲い込み・直射日光などの条件により影響が大きい場合



無風状態 (<0.1m/s) におけるブランク上昇値の確認試験

- 最悪な条件を設定した擬似的なラボでの試験においては
 空気滞留(無風状態)、外気温 40°Cで $4 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 程度上昇します。